

## 『林田農園塾“旬彩”』を開園しました

姫路市林田町のはやしだ交流センター「ゆたりん」北側に5月中旬、当JAの研修型農場「林田農園塾“旬彩”」を開園しました。全体規模は約5,000㎡で、露地野菜区画(2区画・各約1,200㎡)・果樹区画(約900㎡)、花き区画(約900㎡)の4区画で構成し、JA直売所「旬彩蔵」で有力となる作目の選定と、旬彩蔵出荷者や出荷予定者向けに栽培技術向上につながる研修を中心に行います。

今年度は、農業塾「アグリドリーム2020秋冬」を8月から開き、15人の塾生がキャベツやハクサイ、ブロッコリーなどの秋冬野菜を実際に育てながら、野菜づくりの基礎を学んでいます。また、旬彩蔵の端境期対策となる作目の選定および栽培モデルの確立を目的として、9月どりエダマメの品種試験や、キャベツの寒玉系・春系を組み合わせた長期どり試験を行うとともに、営農指導員の育成の場としても活用し、農業技術の習得と向上に努めています。

今後も、主力品目となる作物の選定や作付け、販売を通じた情報を提供することで、さらなる農業者の所得向上と農業生産の拡大を図ります。



## 農作業ひとくちメモ

### 収穫が終わった後の畑の管理は？

病害虫には長期間にわたり土の中で生存し、次に栽培する農作物に被害を与えるものが多いです。ナス科の青枯病やウリ科のつる割病、アブラナ科の萎黄病、各種野菜のウイルス病などは、土壌や土に埋まった前作の茎葉から伝染するやっかいな病害です。

対策として、収穫後の茎葉はすき込まず、畑の外に持ち出しましょう。焼却するのがいちばん良いのですが、できない場合は積み重ねて発酵させ、完熟後に堆肥として使うことも方法のひとつです。

一方で、イネ科やマメ科は共通の病害が少なく、むしろ土壌微生物を多様化して好影響を与えるので、茎葉や根を畑にすき込んで土づくりに活用しましょう。

